

令和2年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第7号(10月予報)

○向こう1か月の天候の見通し（令和2年9月17日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 (平年比)	9月からの増減	10月の発生量 (平年比)	
カンショ	① ナカジロシタバ	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② イモキバガ	やや少	→	やや少	平年の発生量の推移 (→)
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
	② メイチュウ類 (イネヨトウ)	並	→	並	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)
（温かんきつ）	① かいよう病	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
	② 黒点病	やや多	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③ そうか病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移 (→)
	④ アブラムシ類	やや少	↘	やや少	平年の発生量の推移 (↘)
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	⑥ ハダニ類	(発生なし)並	↗	並	今後1か月の気温が平年より高い見込み
（タかんきつ）	① かいよう病	やや少	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)
	② 黒点病	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	③ そうか病	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	④ アブラムシ類	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	⑤ ミカンハモグリガ	並	↘	並	平年の発生量の推移 (↘)
	⑥ ハダニ類	(発生なし)並	→	並	平年の発生量の推移 (→)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○10月の発生予報つき（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 (平年比)	9月からの増減	10月の発生量 (平年比)	その他、気象要因等あれば記載
マン ゴ ー	① チャノキイロアザミウマ	やや少	↗	並	新梢の発生量が増加するため
	② マンゴーハフクレタマバエ	やや多	↗	やや多	新梢の発生量が増加するため
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移 (→)
ヘ チ マ	① ヒメクロウリハムシ	並	—	—	
オ ク ラ	① フタテンミドリヒメヨコバイ	やや多	—	—	
(年 末 出 荷 用)	① 黒斑・褐斑病	多	↘	多	平年の発生量の推移 (↘)
	② アザミウマ類	多	↗	並	平年の発生量の推移 (↗)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	9月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
か ん き つ	果樹カメムシ類	病害虫防除員報告（本島北部）によると、本種が多発生であった。幼果では落果させ、肥大中期以降の果実では変形や褐変し、障害果を生じるため、早期発見・防除に努める。
マン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
(年 末 出 荷 用)	マイマイ類	病害虫防除員報告（北部地区）によると中発生であった。定植時期は生長点等を食害されるため捕殺や薬剤散布等により防除に努める。

令和2年度 宮古群島 病害虫発生予報 第7号(10月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年9月17日発表:沖縄気象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報 (宮古群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 (平年比)	9月からの増減	10月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マンゴー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	① マンゴーハフクレタマバエ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗) 新梢が発生量が増加するため
	② ハダニ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※(発生なし)は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(宮古群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	ツマジロクサヨトウ	9月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マンゴー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	9月の調査施設にてナカジロフサヤガやコシロモンキドクガの発生が確認された。新葉を集中加害するため、施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。

令和2年度 八重山群島 病害虫発生予報 第7号(10月予報)

○向こう1か月の天候の見通し(令和2年9月17日発表:沖縄气象台)

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○10月の発生予報 (八重山群島)

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		9月の発生量 (平年比)	9月からの増減	10月の発生量 (平年比)	
水 稲	① 葉いもち病	(発生なし)並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② ごま葉枯病	多	→	多	平年の発生量の推移(→)
	③ 斑点米カメムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	④ イネミスゾウムシ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑤ コブノメイガ	多	↗	多	平年の発生量の推移(↗)
	⑥ セジロウンカ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
	⑦ スクミリンゴガイ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)
さ と う き び	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
	② メイチュウ類(イネヨトウ)	並	↗	並	芯枯率率の平年の発生量の推移(↗)
マ ン ゴ ー	① チャノキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② マンゴーハフクレタマバエ	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	③ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
オ ク ラ	① うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移(↗)
	② フタテンミドリヒメヨコバイ	並	↘	並	平年の発生量の推移(↘)

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値: 過去5~10年間の発生量の平均値
- 例年値: 過去3~4年間の発生量の平均値

※増減傾向は、発生量(現況)と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予察の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫(八重山群島)

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さ と う き び	ツマジロクサヨトウ	9月のフェロモントラップで本種雄成虫が捕獲されているため、定植時に粒剤の株元散布を行う。なお、粒剤は効果が出るまでに数日かかるため、ツマジロクサヨトウを発見した場合は、即効性のある農薬を散布する。
マ ン ゴ ー	炭そ病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは感染源となるのでほ場外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	9月の調査施設にてナカジロフサヤガやコシロモンキドクガの発生が確認された。新葉を集中加害するため、施設内をよく見回り、早期発見・防除に努める。